郊外住宅地における孤立化問題とマンパワーに関する研究
－「孤立しないで安心して生活するための調査」結果を通して－

○　NPO法人コスモスの家　　本田和隆（6845）

キーワード：孤立化、社会資源、地域包括ケア

１．研 究 目 的

本研究は､郊外住宅地において､住民が孤立化する要因は何なのかを検討するとともに、それ解決する地域のマンパワーや必要とされていることについても検討することを目的としている。また、この結果から今後の地域包括ケアの仕組みについても考えたい。

２．研究の視点および方法

本研究は、川崎市多摩区三田小学校区5386世帯（2010年4月現在）の内、4000世帯の20代以上の地域住民に対してアンケート調査を行った。調査した期間は、2010年9月20日（月）～2010年10月31日（日）である。

配布・回収方法は、各自治会・管理組合、個人などによって様々であり、状況に応じて方法を工夫した。配布方法は、「手渡し（訪問)、ポスティング、自治会・管理組合経由」である。回収方法は、「手渡し（訪問)、ポスティング、自治会・管理組合経由、郵送」である。本調査活動では、調査活動を通して住民の組織化やネットワーク作りを促すことも実践的なねらいとしてあったため、配布・回収方法が自治会や管理組合、個人によって異なっている。配布・回収の協力者は、三田地域に関わりのある78名である。

地域の実態を把握する視点は「①くらしの基盤としての住民の仕事や収入、居住環境」、「②暮らしの問題を解決しようとする地域，家族の力」、「③地域住民の基本的人権を保障する行政サービスの水準」である。この視点に基づき、「近所付き合い、人間関係」、「地域との関わり、地域活動への参加」、「現在の住まい、暮らし」、「将来の暮らし方」などを調査項目とした。また、このアンケート用紙は三田地域調査研究会によって検討された。

本調査では、多くの自治会、管理組合、個人などの協力を得られたことで、自治会・管理組合別に再集計できるように工夫した。そのため、地域のニーズや孤立化の要因などを三田地域全体で検討するとともに、自治会・管理組合別に比較検討出来るようにした。

３．倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき、研究活動を行うよう努める。特に、本研究はアンケート調査法を用いているので、対象者の名誉やプライバシー、調査結果の改竄、調査過程を詳細に明示すること等を十分に配慮した。なお、本研究の発表にあたっては、NPO法人コスモスの家､明治大学理工学部建築学科園田研究室に対して発表内容の説明を行い、

情報公開について承諾を得ている。

４．研 究 結 果

調査票は、三田小学校区全世帯のうちの 4000 世帯に配布し、1354 票を回収（33.8%）した。有効回答数は 1332 票であった。研究結果の概要は、以下の通りである。

【回答者の属性】回答者の 6 割が女性、4 割が男性だった。年代別では、65 歳以上が 38.5%と最も多くを占めるが、現役世代の回答も多く大きな偏りはない。回答者の自治会・管理組合別割合は、西三田団地が 35.2%、次いでレイディアントシティが 18.8%、町会・自治会 18.2%、その他のマンション 18.2%を占めている。回答者の世帯型は、「一人暮らし」と「夫婦のみ」を合わせると全体の 5 割弱を占める。特に、65 歳以上の回答者の 8 割強が「一人暮らし」と「夫婦のみ」世帯であった。

【近所付き合いや人間関係等】近所付き合いの程度は、「顔を合わせた時に挨拶をする」が 77.3%と最も多かった。「ほとんど付き合いがない」と答えた理由で最も多かったのが「近所に住んでいる人をよく知らない」が 62.1%、「近所付き合いが苦手」が 17.2%、「近所付き合いに関心がない」11.7%だった。友人や親戚・家族との付き合いについては、「特段の付き合いがない」と答えた者が 0.7%（8 名）いた。また、お盆や年末年始に「一人で過ごす」と回答した方が 9.2%（122 名）いた。そのうち 75 歳以上の高齢者は 48 名で、他の世代と比べて割合が高い。

【地域との関わり、地域活動への参加】地域で少しでも出来ることとして、「地域の外国人との交流と援助」「働く女性のための一時保育」「地域の一人暮らしの方の話し相手」「送迎ボランティア」「地域パトロール」「公園の清掃美化活動」「若者達に伝統料理を教えたい」「高齢者に代わっての買い物」など 109 名からの回答があった。そうした地域活動に既に関わっている人を含めて、「少しでも活動に関わっても良い」と考えている前向きな人が 77.8%を占めた。そのうち、「これから参加したい」が 2.0%（26 名）、「状況が整えば参加したい」21.6%（280 名）である。地域のマンパワーとして「退職者」に期待したいが、退職者の回答者 135 名のうち 40 名は「参加できない、参加したくない」と答えている。

【現在の住まい、暮らし】回答者の住まいは、「持家マンション」が 68%、次いで「戸建ての持家」が 19%を占め、回答者のほとんどは持家世帯であった。集合住宅（持家マンション、賃貸アパート）居住者の場合 88%が 3 階以上の建物に居住している。ところが、エレベーターのある集合住宅居住者は 39%にとどまっている。

【将来の暮らし方】三田地域での住み続け意思は、「できるかぎり住み続けたい」が 56%と最も多く、次に「わからない」14%であった。健康不安等になった場合の居住対応は、「地域のサービスを利用して出来るだけ現在の家に住み続ける」が 45%、次いで「わからない、何とも言えない」26%、「安心の得られる適当な住宅や住まいに住み替える」18%、「子どもと同居や近居する」6%であった。